短期大学の質的転換を促すための学生調査の開発

2016.06.26＠追手門学院大学

〇山崎慎一（桜美林大学）
宮里翔大（桜美林大学大学院）
堺完（日本私立学校振興・共済事業団）
黄海玉（短期大学基準協会）

研究目的と発表概要

研究目的：短期大学の内部質保証を支援する短大生調査の開発

- 短大を取り巻く諸状況
- 短大生調査の開発状況と実施結果
- 短大生調査に対するニーズ分析
- 今後の課題

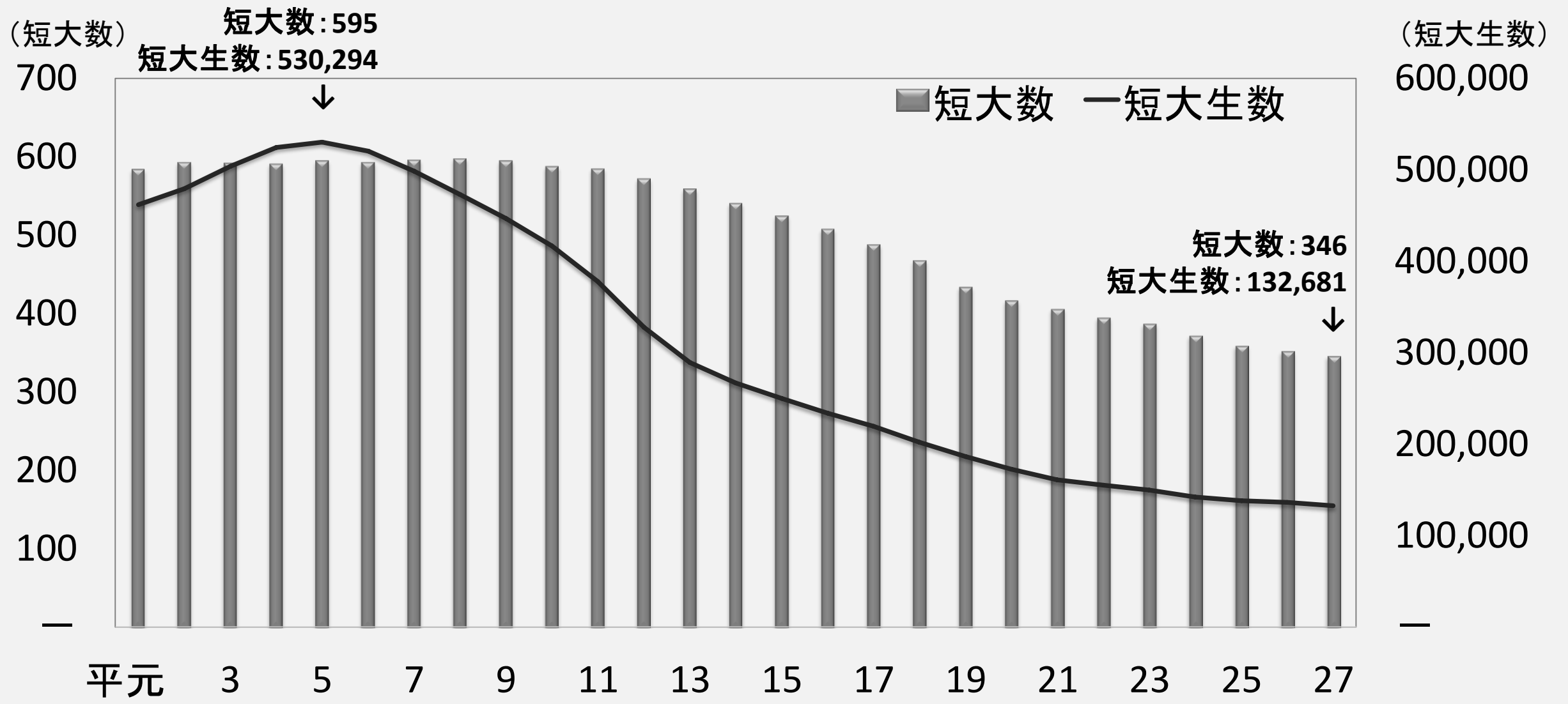
短大を取り巻く諸状況

日本の高等教育における短期大学の役割と機能

- 学位（短期大学士）取得が可能
- 教育の質が保証されている
- 教養と専門教育のバランスが取れている
- 汎用的職業能力の育成
- 小規模できめ細かい教育
- アクセスしやすい

「短期大学の今後の在り方について」より

短大の現状


（短大数）
（短大生数）
短大数：595
短大生数：530,294
短大数：346
短大生数：132,681
短大数
短大生数
700
600
500
400
300
200
100
600,000
500,000
400,000
300,000
200,000
100,000
平元
3
5
7
9
11
13
15
17
19
21
23
25
27

短期高等教育を取り巻く政策の動向：
短期大学の今後の在り方について（審議まとめ）（H26）

- 短期大学の今後の役割と機能

（1）専門職業人材の養成

（2）地域に密着した高等教育機関としての活用

（3）高等教育のファーストステージとしての期待と可能性

（4）生涯学習機能の充実－多様な生涯学習の機会の提供

短期高等教育を取り巻く政策の動向：
実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の在り方について（審議のまとめ）（平成27年）

<u>専門職業大学の創設</u>

- 多様な若者のニーズと産業界の人材需要への対応
- 企業における人材育成機能の縮小
- 現行制度のみによる将来に向けた対応の限界
- 社会人の学び直し需要への対応
- 高等教育系統の多様化

短期高等教育を取り巻く政策の動向：内部質保証の重点評価項目化

- 学校教育法第百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の一部を改正する省令（平成28年文部科学省令17号）
- 内部質保証は重点評価項目に
- 内部質保証の定義

高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、これによって、その質を自ら保証すること

（大学評価・学位授与機構，『高等教育に関する質保証関係用語集第三版』

学校教育法第百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の改正について（諮問）

27文科高第1129号
平成28年3月18日
中央教育審議会

次の事項について，理由を添えて諮問します。

学校教育法第百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の改正について

文部科学大臣　　馳　　浩

（理由）

大学における教育研究の質の確保や水準の向上に重要な役割を担う認証評価について，卒業の認定に関する方針，教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針に基づく大学教育の質的転換の促進や，内部質保証の確立を重視した評価への転換が求められており，評価基準・方法等を改善する必要がある。

このため，別紙のとおり，学校教育法第百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令を改正するため，同法第百十二条第二号及び第百二十三条の規定に基づき，標記の諮問を行うものである。

「学校教育法第百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の一部を改正する省令（平成28年文部科学省令17号）」
平成28年3月31日公布、平成30年4月1日施行

① 重点的に認証評価を行うこととされた内部質保証に関することについて，優れた取組等を実施していると評価した大学等に対し，次回評価において評価内容及び方法の弾力化により評価の効率化を図ること。

② 大学等の教育の質的転換を促進するため，各大学等が学生の学修状況の把握・評価の実施状況についての評価に取り組むこと。

③ 評価の過程において，認証評価と社会との関係強化等の観点から，高等学校，地方公共団体，企業，学生等からの意見聴取に取り組むこと。

④ 認証評価に係る各大学等の負担の軽減のため，国立大学法人評価などの他の評価における教育研究に関する評価資料及び結果も活用した評価に取り組むこと。

短大を取り巻く環境（小括）

- 減少する短大数、短大生数
- 不明確な高等教育における短期大学の位置付け
- 新たな高等教育機関「専門職業大学」の創設可能性
- 評価の実質化と内部質保証の促進

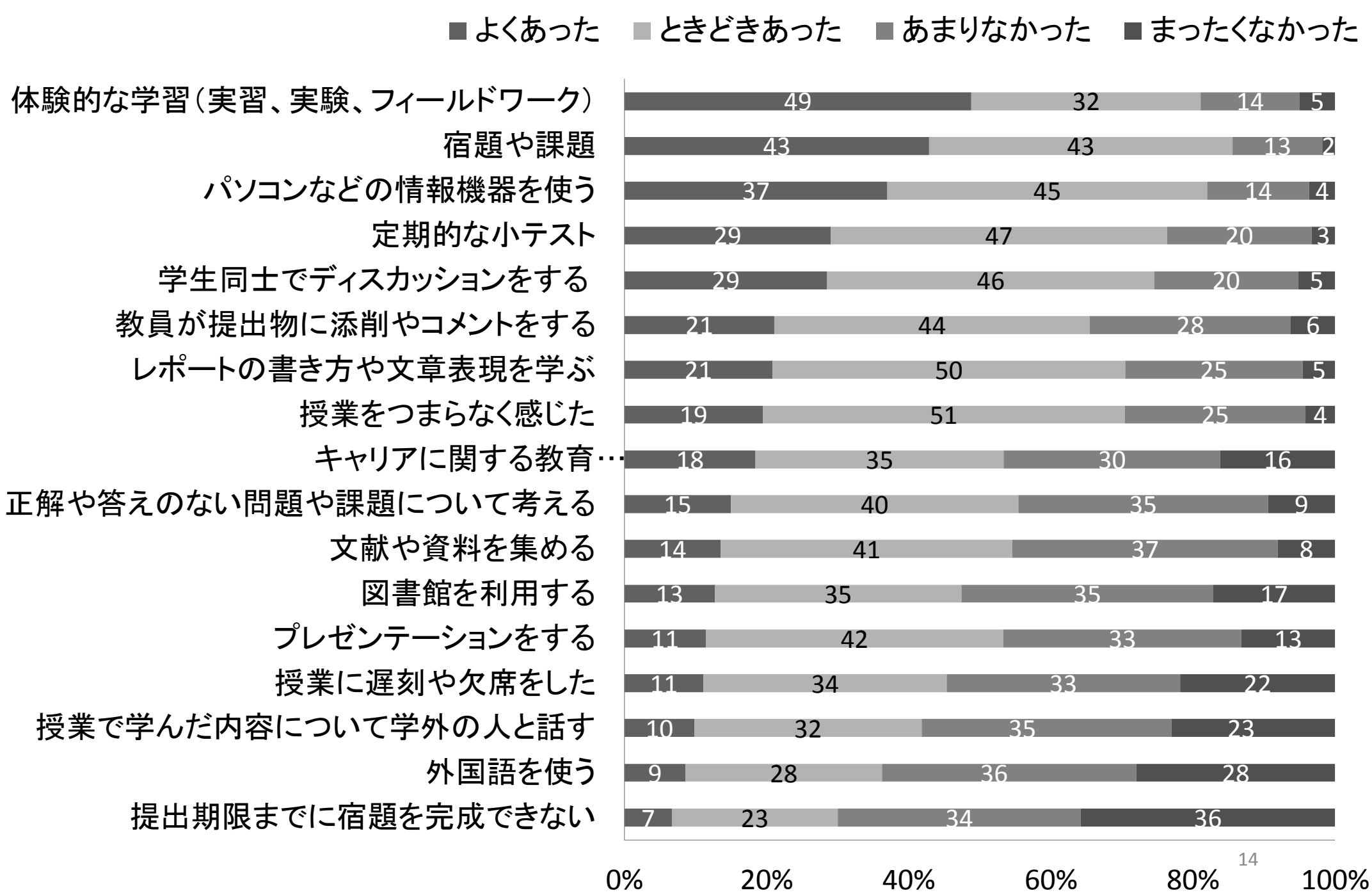
2015年調査の集計結果概要

調査の概要

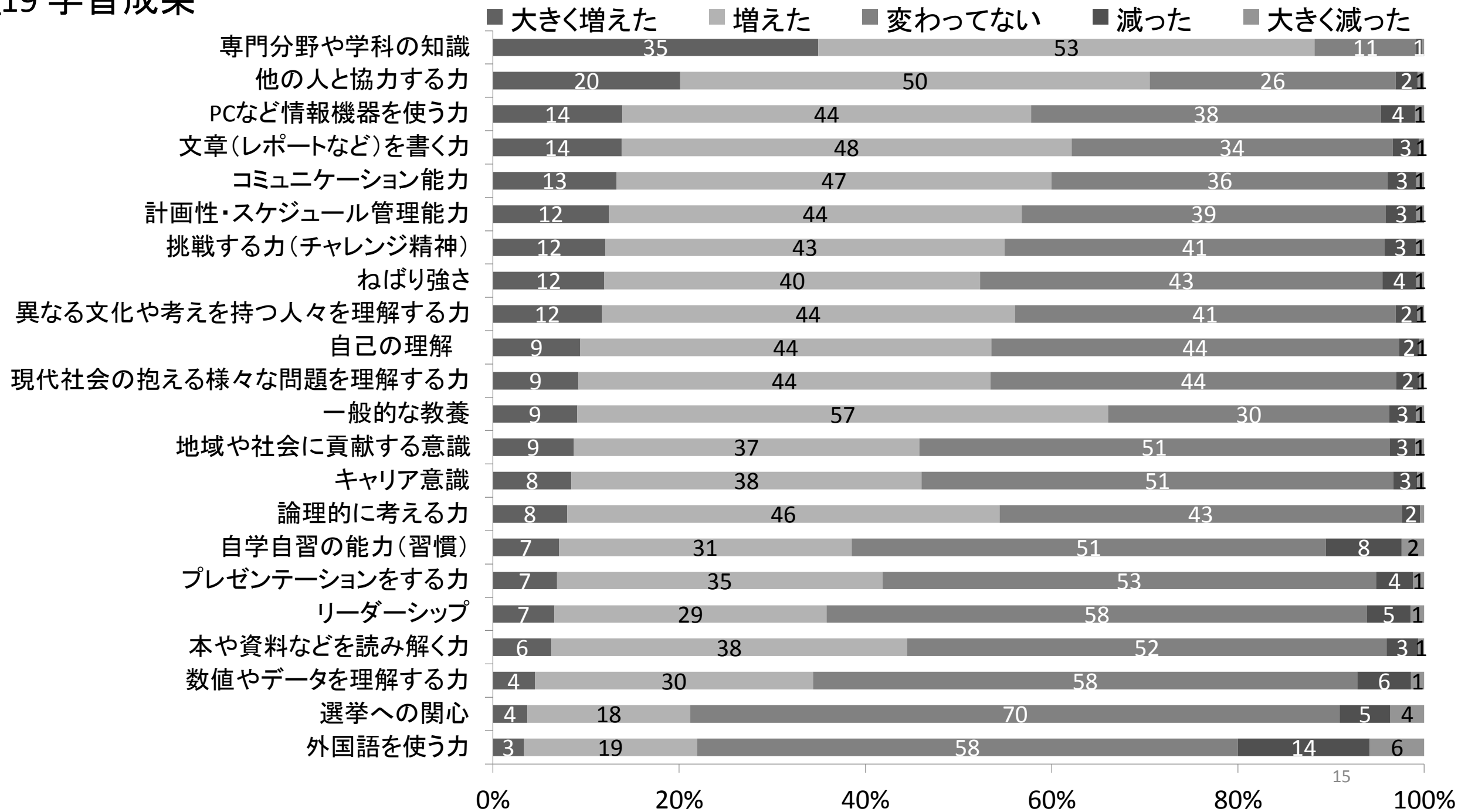
- 調査対象者：短期大学に在籍する学生
- 調査時期：2015年11月上旬～12月上旬
- 調査参加校：59校（2014年度は44校）
- 調査参加者数：18,532名（同12,093名）
- 調査方法：調査参加校が、所定の調査票により調査を実施
- 調査内容：入試方法、入学目的、学習行動、課外活動、回答時点の学習（学修）成果や短大に対する満足度や印象
- データ返却方法：全体と個別短大に対し単純・クロス集計結果

http://www.jaca.or.jp/service/other/research/tandaiseichosa.html

Q11 学習経験


よくあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった
体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク） 49 32 14 5
宿題や課題 43 43 13 2
パソコンなどの情報機器を使う 37 45 14 4
定期的な小テスト 29 47 20 3
学生同士でディスカッションをする 29 46 20 5
教員が提出物に添削やコメントをする 21 44 28 6
レポートの書き方や文章表現を学ぶ 21 50 25 5
授業をつまらなく感じた 19 51 25 4
キャリアに関する教育… 18 35 30 16
正解や答えのない問題や課題について考える 15 40 35 9
文献や資料を集める 14 41 37 8
図書館を利用する 13 35 35 17
プレゼンテーションをする 11 42 33 13
授業に遅刻や欠席をした 11 34 33 22
授業で学んだ内容について学外の人と話す 10 32 35 23
外国語を使う 9 28 36 28
提出期限までに宿題を完成できない 7 23 34 36
0%
20%
40%
60%
80%
100%

Q19 学習成果

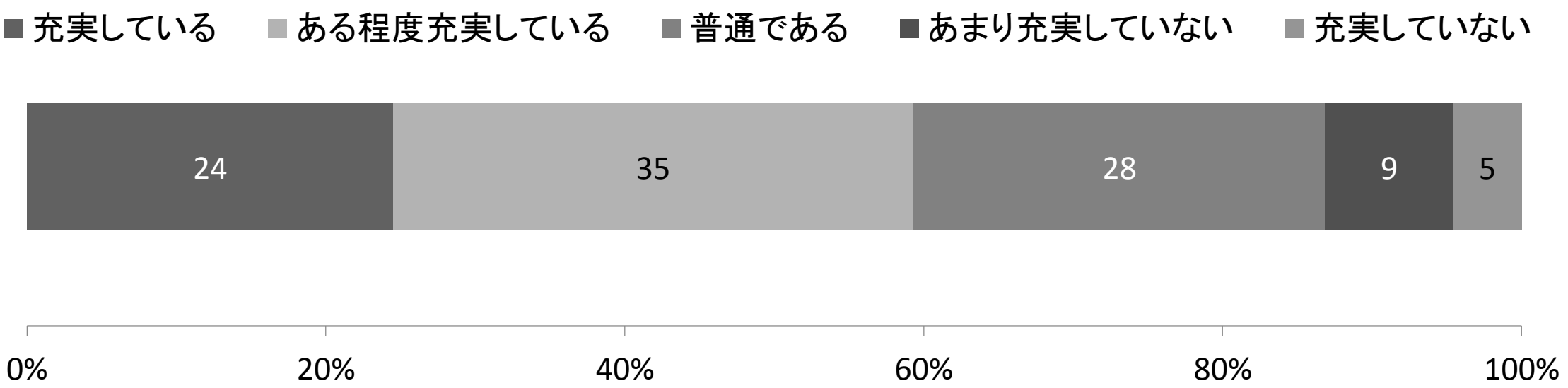

大きく増えた
増えた
変わってない
減った
大きく減った
専門分野や学科の知識 35 53 11 1
他の人と協力する力 20 50 26 2 1
PCなど情報機器を使う力 14 44 38 4 1
文章（レポートなど）を書く力 14 48 34 3 1
コミュニケーション能力 13 47 36 3 1
計画性・スケジュール管理能力 12 44 39 3 1
挑戦する力（チャレンジ精神） 12 43 41 3 1
ねばり強さ 12 40 43 4 1
異なる文化や考えを持つ人々を理解する力 12 44 41 2 1
自己の理解 9 44 44 2 1
現代社会の抱える様々な問題を理解する力 9 44 44 2 1
一般的な教養 9 57 30 3 1
地域や社会に貢献する意識 9 37 51 3 1
キャリア意識 8 38 51 3 1
論理的に考える力 8 46 43 2
自学自習の能力（習慣） 7 31 51 8 2
プレゼンテーションをする力 7 35 53 4 1
リーダーシップ 7 29 58 5 1
本や資料などを読み解く力 6 38 52 3 1
数値やデータを理解する力 4 30 58 6 1
選挙への関心 4 18 70 5 4
外国語を使う力 3 19 58 14 6
15
0%
20%
40%
60%
80%
100%

- 短大生の学生生活の充実度は比較的高い

『Q23　あなたの学生生活は充実していますか』に対し…

約59%の学生が充実していると回答

充実していないと回答したのは約14%



アンケートから見る短大生調査の活用実態：

- 全体集計と個別集計の比較、個別集計を学年比較などしてグラフ化
- 自己点検・自己評価や認証評価対応
- カリキュラム改革
- 学生募集の見直し
- FD・SD研修会での報告や教職員の意識の共有
- 学生支援やキャリア支援の方策決定
- 学生の実態を把握した上で教育内容の見直しや授業方法の改善、資格取得を奨励する独自奨学金を創設
- 高校教員や保護者向けに自大学の実情を示す資料として活用
- 学内で他に行っている調査と比較し、学生の実態をより深く把握

内部質保証を支援する短大生調査の課題

研究開発としての短大生調査

- 参加短大に調査データの返却に際して、実施担当者に対して短大生調査に関する（ニーズ）アンケート調査を実施

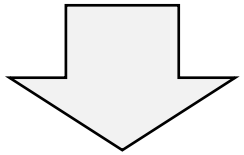
1. 学科別集計の反応（2015年度からの試行的に実施）
2. 内部質保証に役立つための短大生調査の課題

○上記２点について、2014、2015年度アンケート調査結果を整理

1．学科別集計の反応

◆学科・専攻課程別集計の必要性と有効性

2014年度アンケート（導入前年）:「学科別集計は必要＋やや必要」9割



- 2015年度調査に学科別集計を希望　59校中38校（65%）
- 2015年度アンケート（導入初年）:「学科別集計は有効＋おおむね有効」8割弱

- 学科・専攻課程別集計への改善要望

  学科別でなく、専攻科別・コース別の集計を可能にしてほしい

  類似分野内でも2年制と3年制で異なるケースがある

分野分類表（試行版）

系コード（大分類）	学科・専攻数	細目CODE1：(カッコ内は学科・専攻数内訳)	細目CODE2：(カッコ内は学科・専攻数内訳)	細目CODE3：(カッコ内は学科・専攻数内訳)	細目CODE9（その他）：(カッコ内は学科・専攻数内訳)
1: 教育系	292	幼児・保育(274)	―	―	初中等教育、体育、養護等(18)
2: 教養・総合系	150	教養・総合・キャリア・文化（79）	国語・国文・日本語（17）	外国語・コミュニケーション（45）	別科等（9）
3: 健康系	287	看護（28）	福祉・リハビリ（98）	食物栄養（105）	検査技師、歯科衛生等（56）
4: 家政系	70	家政・生活（47）	被服・服飾（21）	―	デザイン等（2）
5: 芸術系	54	芸術・美術（27）	音楽（23）	―	演劇等（4）
6: ビジネス系	71	ビジネス（22）	情報（13）	経済（28）	秘書、法学等（8）
7: 理工系	36	工学（22）	―	―	農業、環境等（14）
8: その他	10	その他（10）	―	―	―

平成26年度 全国短大・高専一覧より

内部質保証に役立つための短大生調査の課題：調査結果のフィードバックの充実

- 個別の集計結果データの活用支援（データを使いたいが個別データを集計・分析する人員が確保できないとの声）

⇒グラフ化の編集の手間を省く試みとして、2015年度からグラフの作成支援を実施（全体集計報告書と同様のグラフを参加短大のデータから作成）

- 上記の取り組みのように、参加短大の関心の高い項目について、報告書の記載方法やグラフ化ツールを提供する（参加年度別比較、学年別、性別、規模別、地域別の集計結果の提示など）

内部質保証に役立つための短大生調査の課題：その他の要望

1．学生調査の回答負担の軽減

→学生が即座に理解でき、簡単に回答可

2．簡易な個別分析レポート

→IR業務に割ける人の確保が困難

3．調査期間の延長

→授業時間や学生の回答時間の確保

4．他大学の調査結果活用事例の紹介

→他短大のグッドプラクティス情報が必要

総括

- 教育の質的転換を促進するため、各大学等が学生の学修状況の把握・評価の実施をすることは必要不可欠に
- 内部質保証の実質化のためにも、学修状況の把握は欠かせない
- 比較可能な情報と高い学科別集計ニーズ
- 短大自体が質保証の活動に取り組めるようにどう支援していくか